

## 令和3年度福岡市農林業振興審議会第1回林業分科会での主な意見

### (1) 森林の保全・再生

- 福岡市は人工林の割合が高く、都市部であるため、多様な森づくりがあってよい。どうやって多様な森にしていくかということも非常に重要。
- 市有林や分収林を活用し、企業や市民グループに任せて自由に入れる森にするような仕掛けがあると面白い。千葉県や神奈川県など都市部の活動が参考になる。
- 土砂流出防備保安林の割合も高く、主伐する際には土砂災害に気を付ける必要がある。

### (2) 市民と森林のかかわり

- 森の重要性、木をむしろ使っていないといけないという認知が浸透していない。
- 全世代にわたって森をもう少し近いものにできたらよい。油山市民の森のリニューアルを契機に、周知に力を入れ、森に入って遊ぼうという感覚を広めたい。
- いわゆるグローバル企業など、森林の関心度は高まっているが、市民からすると森林や林業はハードルが高い世界と感じられているため、もっと知ってもらう必要がある。
- 水をもらっている市域外の水源地の水源涵養林と、市民をつなぐ連携の仕掛けが必要。横浜市の小学生が山梨県小菅村の水源地で間伐した材を持ち帰り丸太小屋を作る、水源林の意識が根付く取組みが参考になる。

### (3) 森林経営

- 境界や所有者不明が一番の課題である。個人所有の小規模な山では林道がなく伐採できないところがある。行政が引き取りまとめて利用していけないか。
- 境界明確化や所有者確定のラストチャンスといえるので、経営管理制度を動かすための重点施策として、木材の安定供給の視点からも取り組むべき。
- 森林環境譲与税や森林環境税の活用や森林経営計画について多くの所有者は知らないので、説明会の開催や集落単位のモデルケースに取り組むと進んでいくのでは。

(4) 地域産材の利用促進

- 建築物の木材利用が注目を集めている。伐って適正に使い、山を支えていくために、どう施策を打っていくのかが重要。
- 市内でも民間の中大規模の木造・木質化が今後進んでくるため、交流も含めた連携の取り組みができるとうい。
- 福岡市の人口から、九州の林業全体の発展のため、九州の山を良くするためにも木を使うという視点も必要。
  
- 公共建築物の木質化の専門的な技術を持った職員がいない。農林水産局だけでなく全庁的な職員の育成を考える必要がある。
- 市庁舎 1 階の赤ちゃんの駅のように、木の安らぎを活かした施設整備により子育て世代を支える取り組みが増えるとよい。
- 幼稚園、保育園、小中学校の教育施設の木造を行い、小さいころから良いものに触れることが必要。
  
- 民間施設でも内装の木質化がもう少し進むと、目に見えて市民に伝わる。民間の設計士にガイドラインの内容を伝える研修等の機会を。
- 木造建築は、基礎が簡素で済み、大断面集成材も技術革新により安くできるようになるなど、メリットが大きくなってきていることを民間にも周知してほしい。
- 建築と設計の両方にまたがって計画できる人は少ない。設計の道に進む建築学科の学生に、実演をとおして木を使うことを覚えてもらうなど、もう少し上の学生への教育も有効。
  
- 市の現状から、小規模所有者の森林をまとめてロットを大きくし、他県も含め大きな生産工場と協定を結び加工する方法もある。
- 地域材の調達やコストについては、設計・施工業者を同時に選定する「デザインビルド方式」が有効。木造化における効果の検証をしてほしい。
- 建築時のコストだけでなく、長い目で見ると、素材の製造・運搬時からの二酸化炭素の排出削減のコストも数値化して比較するシステムづくりを進めてほしい。